

瀧澤 はるか さん

【中小企業診断士を目指した理由】

私は都内で会社員をしていますが、一企業で働きながらも経営や会計に関して無知な自分に危機感を抱くことがあり、一度体系的に学んでみたいと思っていたところに本資格の存在を知りました。また、仕事で Web サイトのディレクションや会員登録促進等に携わっており、企画立案や情報発信を行う際、2次試験を通じて論理的思考力や文章力を鍛えることはプラスに働くだらうと考え、受験を決意しました。

【2次試験受験履歴】

H25 1次合格、2次不合格(CABC/B)

H26 1次未受験、2次不合格(BBBB/B)

H27 1次合格、2次合格

【MMCを選んだ理由】

2回目、3回目の2次試験対策としてMMCには2年間お世話になりました。選んだ理由は主に3つあります。

1. 過去問や模擬試験の模範解答での納得感

模範解答の内容、文章構成、表現方法等に納得感があり、「私も本当はこうやって考えてこうやって書きたいのに！」と純粋に思っていました。受験校によってカラーがあるので、感覚的にでも相性のいいところを選ぶことは非常に大事だと思います。

2. ノウハウのシンプルさ

切り口、キーワード、金型化等、MMCのノウハウは少なすぎるくらい少なく、「これなら私にもできそうだな」と思いました。「これさえ会得すれば2次試験も楽に解けるようになるかも」と甘い考えがあったのもまた事実ですが、実際、全問とは言わずともいくつかの問題は楽に解けるようになっていました。

3. スピーディーな答案返却と個別アドバイス

答練が当日中または翌週には返却されるので、効率的に復習ができると考えました。また、毎回個別にご指導いただけるので、何がいけなかったのか、次回はどうしたらいいのか等もかなり効率的かつ明確に把握することができます。真摯なアドバイスに日頃のコンサルティング現場での姿勢も垣間見られ、人として学ばせていただく機会も少なくありませんでした。あと、御茶ノ水が好きで、ここなら落ち着いて勉強できそうだなと思ったことも大きかった気がします。

【MMCでの2年間】

1年目はMMCのカリキュラムと模擬試験をペースメーカーにして順調に勉強を進めました。ノウハウの飲み込みは早かったと思います。講義はわかりやすく、丁寧な個別アドバイスも手伝い、5月のGW頃にはある程度自分のものにできている手応えがありました。

概ね好成績を維持しましたが、本試験では事例Ⅰで解答が全然埋まらないことで気分的に不安定になり、その後の事例でも1年間努力して準備してきたことをほとんど思い出せず、力を発揮できずに終わりました。自分がここまで気持ちの弱い人間だとは思っていなかったため、本当にショックでした。

2年目は1次7科目を再度合格する必要があるため、前半は平日全部と土曜は1次対策、日曜だけ2次対策、とかなり1次に比重を置いていました。1次を確実に通過したかったためではありますが、努力しても合格できなかった2次試験と少し距離を置きたい気持ちもあったかもしれません。

最低限書く感覚を鈍らせないため、5月まではMMCの通信講座を受講し、模擬試験やアドバイス付返却も利用するようにしていました。たまに母校に顔を出すのはよい気分転換となり、精神的に随分支えていただきました。

【転機】

合格した年の夏に、大きな気づきが2つありました。

1つは、よく言われる「ひとまず40点を確保すればよい」を身を持って学んだことです。1次の本試験初日、難化を警戒していた経済が全く解けなくてかなり動揺しました。まさか足切りかも、と1日目終了後に終わった科目のことを考えてはいけないというタブーを破って正答数を数えている自分がいました。これは絶対に合っているだろうという問題がギリギリ10問40点分あり、ようやく平静を取り戻したといった感じでした。

蓋を開けてみれば、経済はなんと80点でした。絶対に合っていると思った10問に加え、2択に絞った問題や、たぶんこれだろうレベルで答えた問題も高い確率で正解していました。私は、80点もとれていた科目を40点に達していないと思い込み勝手に動揺していたのです。1次と2次では試験のタイプが異なりますが、ダメだと思っても実は点数が取れているのかもしれない、どんなに難しく感じてもまずは40点確保し、あとは部分点を積み重ねれば十分合格できるのかもしれない、と通説が肚に落ちた瞬間でした。

2つめは、これもよく聞く話ですが「本当に必要なことはさほど多くない」ということです。私は7月半ばに夏風邪をひいてしまい2ヶ月ほど咳が止まらず、勉強時間を減らさざるをえませんでした。1次の直前期、そして2次の勘を取り戻したい大事な時期に長引く咳と戦うのは辛いものがありました。本当に必要なことだけに絞るいい機会だと捉え、頻出論点はどこか、不要な準備はどれか等を徹底的に考えました。前述したように「40点でよい」という発想と、前年、前々年と「自分が実際受けた本試験でどの準備が本当に有効だったか」という観点を持つと、いかに無駄な武器を持ちすぎているかに気づき愕然とするくらいでした。

最終的には、事例Ⅰ～Ⅲの大事な視点、キーワード、切り口をピックアップしたB5の用紙1枚、事例Ⅳの公式やミスポイントをまとめた用紙1枚、計2枚とかなりの軽装で本試験会場に向かいました。その分増やしたのは、MMCで2年間学んだ自分を信じる強い気持ちでした。

【本試験当日と合格発表】

合格した年の本試験は事例Ⅰの第1問、定番の環境分析が比較的ヒントが多いパターンで逆に上手くまとめられず、早くも立ち止まってしまいました。「40点、40点で大丈夫」と言い聞かせて妥協した解答をサッと書けたことでだいぶ楽になりました。

ですが、得意なはずの事例Ⅱで苦戦し、特にターゲット設定を大きく外してしまったと思いました。心が折れそうになりましたが、前年や1次での反省を活かし、ⅢとⅣではⅡの失敗は極力追いやり(100%は無理でしたが)、目の前の事例に気持ちを戻し、MMCで学んだことをそっと置いてくることに注力しました。

いよいよ事例Ⅳの残り5分となったところで、CVP計算の固定費を転記ミスしていることに気づき、真っ青になって修正をしました。検算を繰り返しているうちに終了の合図が響き、最後はバタバタとせわしなくペンを置きました。

会場を出ると、陽が落ちかけていました。最も自信のある事例Ⅱができなかったことが頭を巡り、「今年も合格はないな」と木枯らしの中を足取り重く帰路についたことを今でも覚えています。

その後MMCの解答速報会では、修正したCVPがおそらく正解に転じたことにほっとしたものの、結局事例ⅠもⅢも何問か論点を外しており、不合格をほぼ確信して帰る羽目になりました。

合格発表の日、「来年は1次受けなくていいし」「また御茶ノ水に通うのも楽しいかも」等々、落ちた時の予防線をめいっぱい張り巡らせて診断協会のHPを確認すると、驚いたことに受験番号がありました。

番号の見間違いがないか、何度も何度も確認しました。

瀬戸際で事例Ⅳのミスを直せたことで、合格者の最終グループにすべり込めたのかもしれませんが、「何事も最後まであきらめてはいけない」これもまた聞き慣れたフレーズですが、心から実感できる貴重な経験をさせていただきました。

MMCに電話をすると、中居先生が喜んでくださいました。

私はかなり涙もろい方ですが、涙は一切流しませんでした。

資格試験は、合格後が本当のスタートだと思っているからです。

【最後に】

過ぎてしまえばあっという間の受験生活でしたが、その大半をMMCが占めていたように思います。先生方は皆優しく、いつも安心して勉強に取り組める環境でした。答案用紙に怒った鬼の絵が描かれている等、時には厳しい？ご指摘もありましたが、今となってはそれもよき思い出です。先生方の温かいご支援が私の合格の源でした。

縁あってご指導いただけたことを幸せに思っています。

ありがとうございました。